



增補教子名所圖之下

子 13
4024
2止



門子 13
4024
2

戲子名所圖會卷之二目錄

曲亭馬琴子編

蒼雅堂

緑川文庫

早稲田 大學 図書館
25 3.3
購 赤

市川山三舛堂

市紅院團像

高麗山錦江仙人栖

彦三祠

高麗寺金舛水

嵐山三八堂

箕助稻荷

大友杜

海老藏寄所菴室

團三樓子藥師

中車寺笹輪堂

尾上松

坂三津塔

瀧野谷四楓

徳治山

友藏主州菴



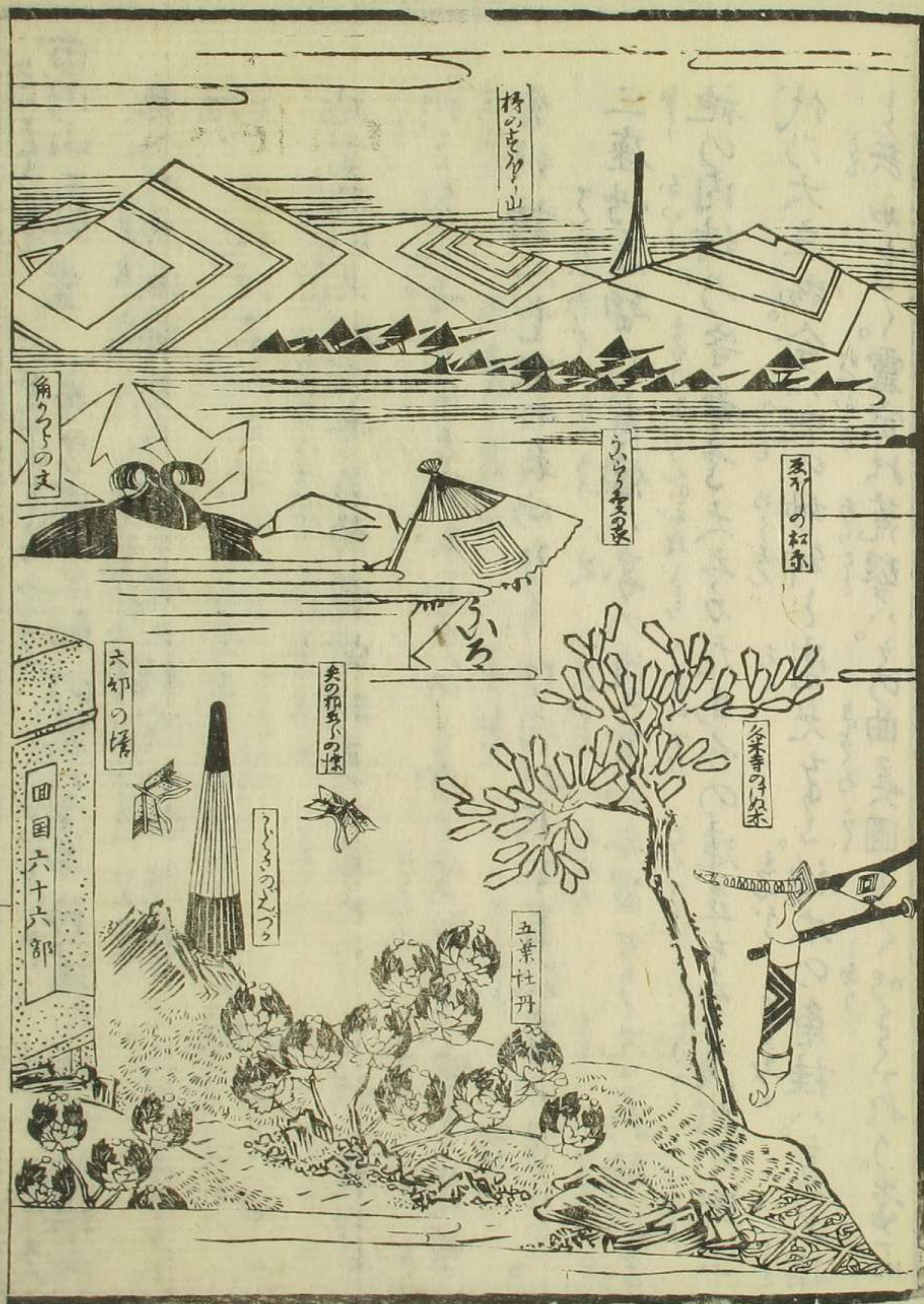
わらわのちこすけわ
 荒五樓新三外井

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



おえどの
 江戸之鼻

えどと
 江戸えてハ外子
 名アと
 かうらと
 冬十月が
 三月



市川山六世の三井主ハ去裁五月十三日就木ノ旨譽自到本刹と六字の碑成也
 春秋ノくまに廿二の夜弘とあり。是をとりて當寺ハ姑空曠乃地ノ似えと
 といふ。この地ハ末武排優家才一の各所ありふり。くまノ不敵後隱居を推
 引。くまノ中ノまの松ノかへらに在り。くまノ名ノ芳き一丈伎
 ある。不可思議。此地なるが在り。於七代目お後の綴地圖説あり。世書の後編
 著る。

市川山三舛堂

奉旨成田不動の寫ハ牛沙派の化アリ拓延

老人の帝依佛なり。團十老五粒院白猿隱居古人三舛主す。

於て六代此名山あり。今の海老翁寄所ハ即ち此也。柞當山ハ寛文

延宝の以元祖牛牛名佛覺榮開基此靈地あり。代々鼻の名

所あり。母也こまは紙おはすのこまと書載せり。實了具負

合信諸人も教の名山なり。境内此名不蒿法甚ぶ。マヌー。

三座付未智乃肖像ハ家の養堂小安置せり。元これ標法系

袍の内侍乃守奉る大老力た馬女の建立あり。府邸の兜六

代乃大立物。今ハ眼の妙神と崇光あり。神本の角桂ハその名指

と共にす。靈宝此荒琴ハその曲英國より。唱とす。れり。此由也

不破の関ハ三舛の門はと。先とや。延宝年中乃造営せ

して稲妻の名所なり。

稲妻此はけり。まり。又。不破乃冨。其角

後此此指書々。ひく門とを。是紙三舛の門と。是地中

小助六の八枚寺あり。名物此は。戸ひ。を深出。寺内

了。蛇乃目此。傘塚。此。五葉牡丹の名所あり。去年三

月。日。海老翁。三。回。忌。小。門。古。三。舛。主。時。下。此

中村小。記。古。今。之。雙。の。懸。世。知。此。也。

三。座。主。の。別。荘。ハ。家。此。養。堂。の。傍。あり。此。亦。小。田。子。の

外。郎。賣。と。也。多。言。の。流。門。ハ。傀。偶。石。と。い。ふ。言。也。此。堂

のうしろは平賀五郎の竹藪なり。此處は土民今と夫の根常
乃此根を堀出るとりとりとつふ鳴神上人の法堂乃遊童宿
跡がなぬ。景清が穿破する古法は云ね系とつふ系不残る

景清と花え乃花下ハ七々浦 七々坂

系清とりきん——母のゆへ家 女麻呂

當處代々俳諧の風流を好てそ白人の身不詰まら。元祖文

牛ハ女麻呂が門下をび。二代目栢進其角と時を同しとを

秀へう。淫若何ぐしつとむき——時栢進がもとく初戀

幸子とたつて涙ふとすへりねば

世のね魚きふとむらぶ乃幸子也 栢進

是等の當意即妙感慨の名句といふべし。その外當亦珍話

名税多しといふも。さうくしといふは家仏言なり。似る

みくも略も。今の白猿隠居を狂言俳諧を好て。是又凡流の

一傑といふべし。此外當所新古の什物。久米寺は鎌塚松丸

のうら石六部乃笈男と助の鐵扇。うららに違はぬ。市川流

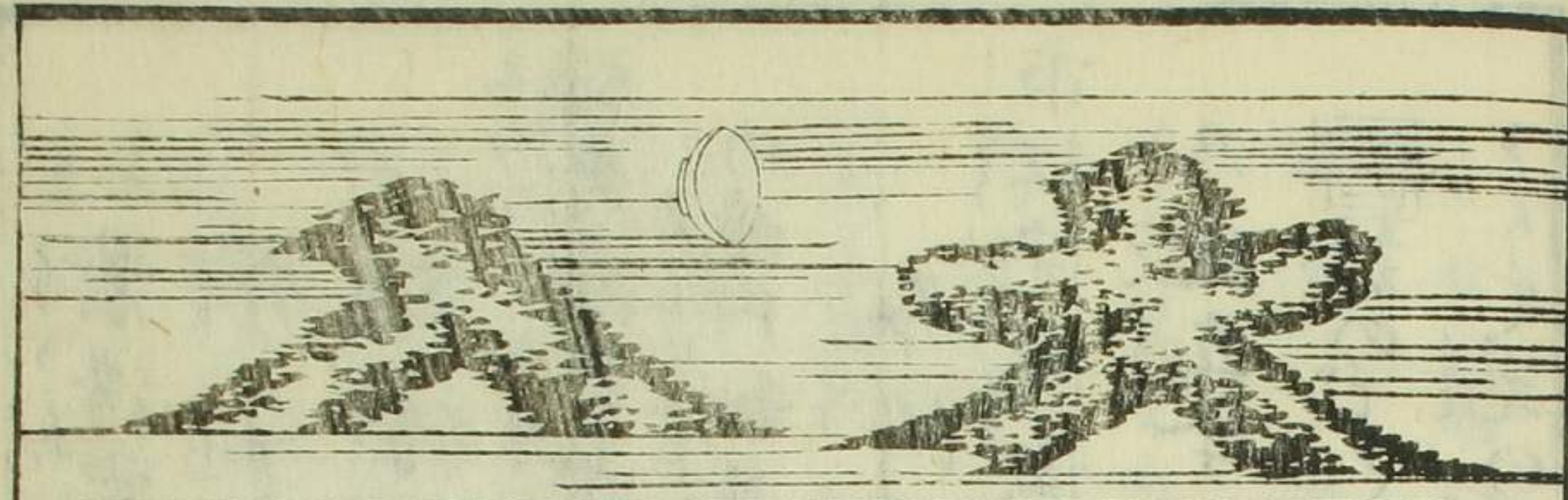
れ繪を筋態をといふ禽獸ハ此山より出るといふ傳上園十郎

仙袂團十郎艾ハ三軒寺門前町の名物なり。

○三軒堂十風景 大太刀月 助六櫻持

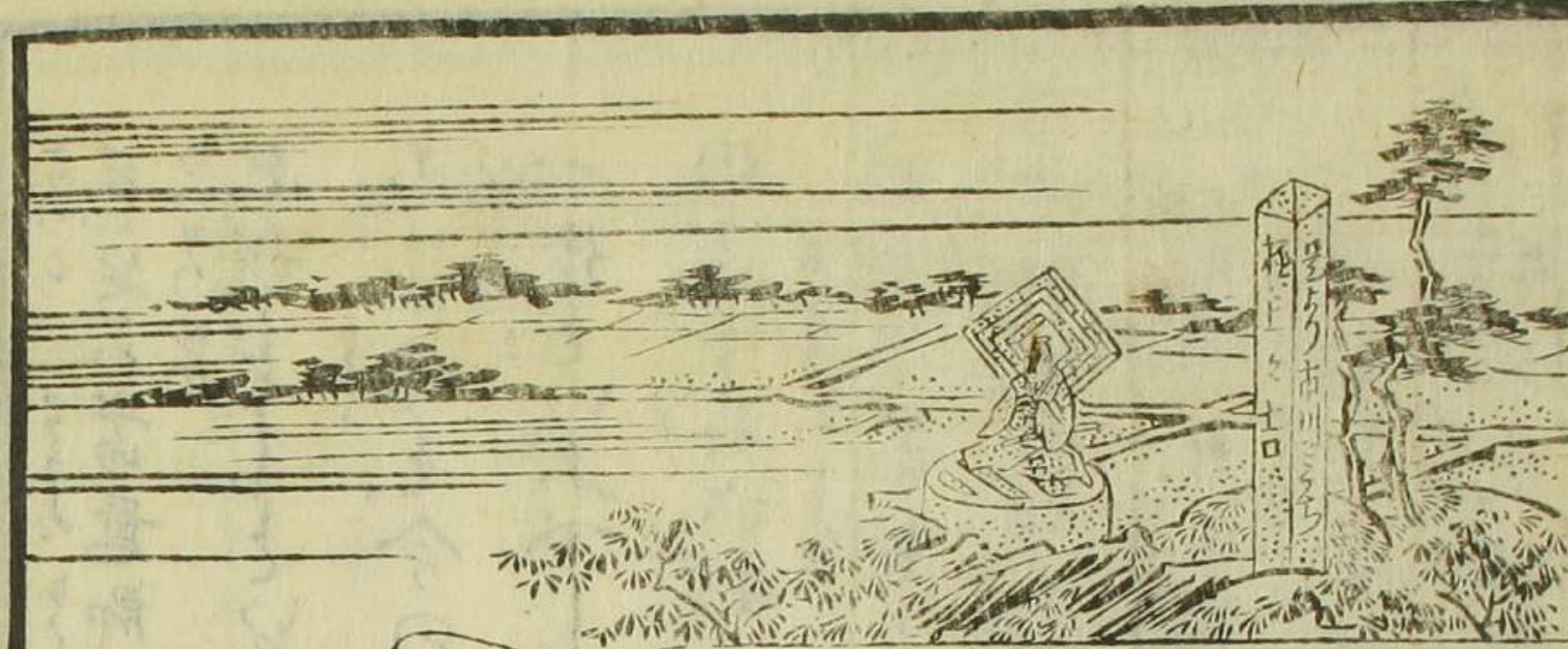
外郎賣百疋 不破稻妻 鳴神瀧壺

時致矢根岩 久米寺鎌塚 三庄大夫老坂



鶏鳴自起_東
 行装_征人
 同伴_忙
 笑_更有_人忙
 却_我
 以_蹇蹄_先印_橋
 上_霜
 李笠翁

市川の流



市紅院團像
 團三樓子藥師
 友藏主艸菴
 荒五樓三井

景清坐行松 六部深雪

今ころ舟園十郎や 鬼を外 其角

天狗何 金十郎が くら乃 山 京傳

海老藏寄所菴室 當寺子役の守本尊あり。三鉢堂

の境内和泉山乃麓小安置せり。幸ハ三鉢堂は縁記ふる。三鉢堂

み川 ちとや 元あし 忠 あり 其角

市紅院團像 立物のちとや。市川流の大地あり。元禄年中

乃建立今三世あ及び。市紅院門ハおありて正徳五年也

のぞく一文字は關鍵を附し。享保六年よを又關鍵を

とりて。元の門とあること人よく知る。當寺此團像併ハ

一先亀谷より出く。後中村ふる。明和六年より市川流の

帰依仏とありて。其後市紅院に安置せり。菴堂建立此也。天明

のころより大坂小徳宿一。具負搦中野一。去々年午

乃をる。くくあり。江戸の表田小徳宿あり。古今は表田

とらふ評判を八百八町寄附せり。菴堂の傍に細井といふ名泉

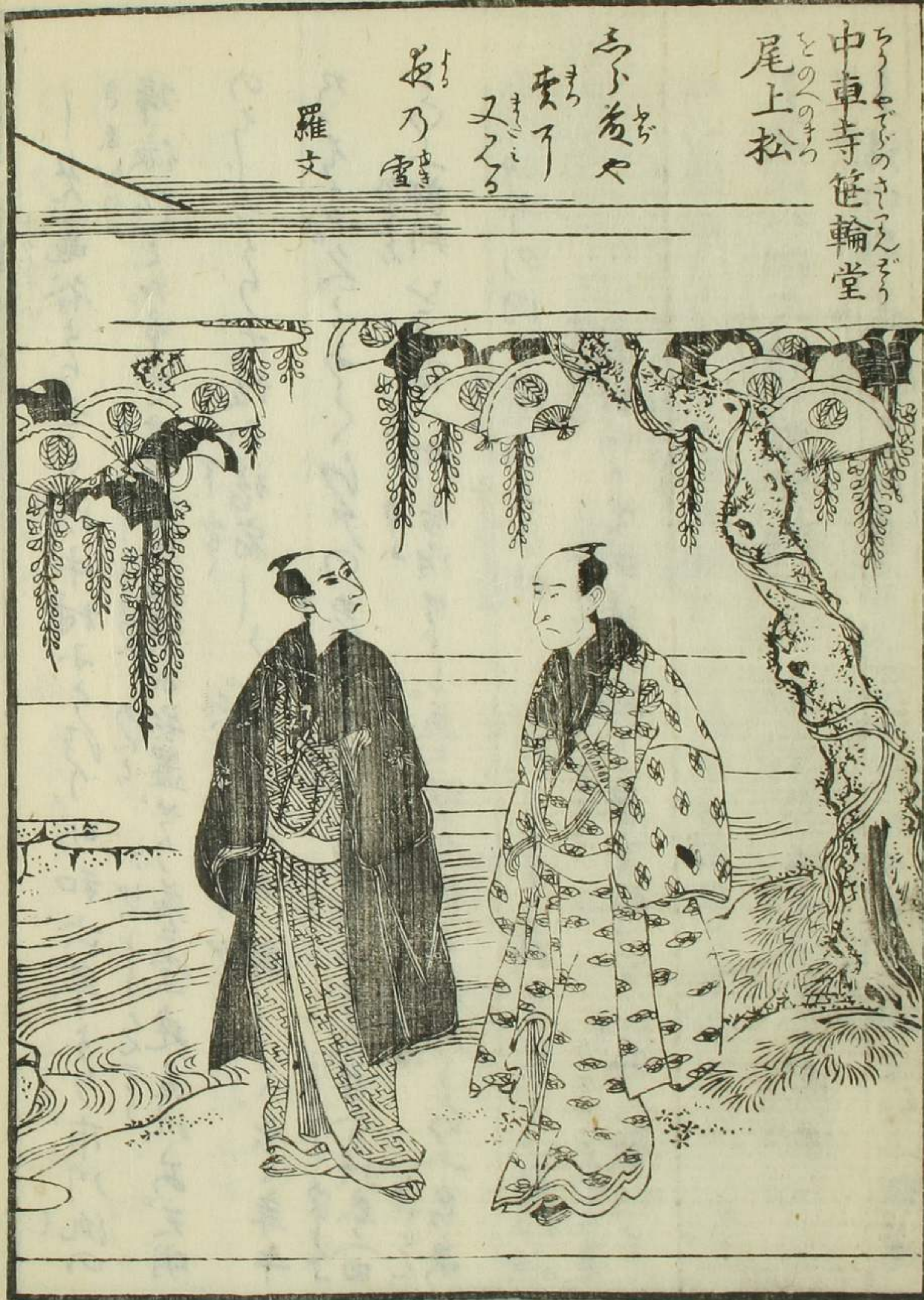
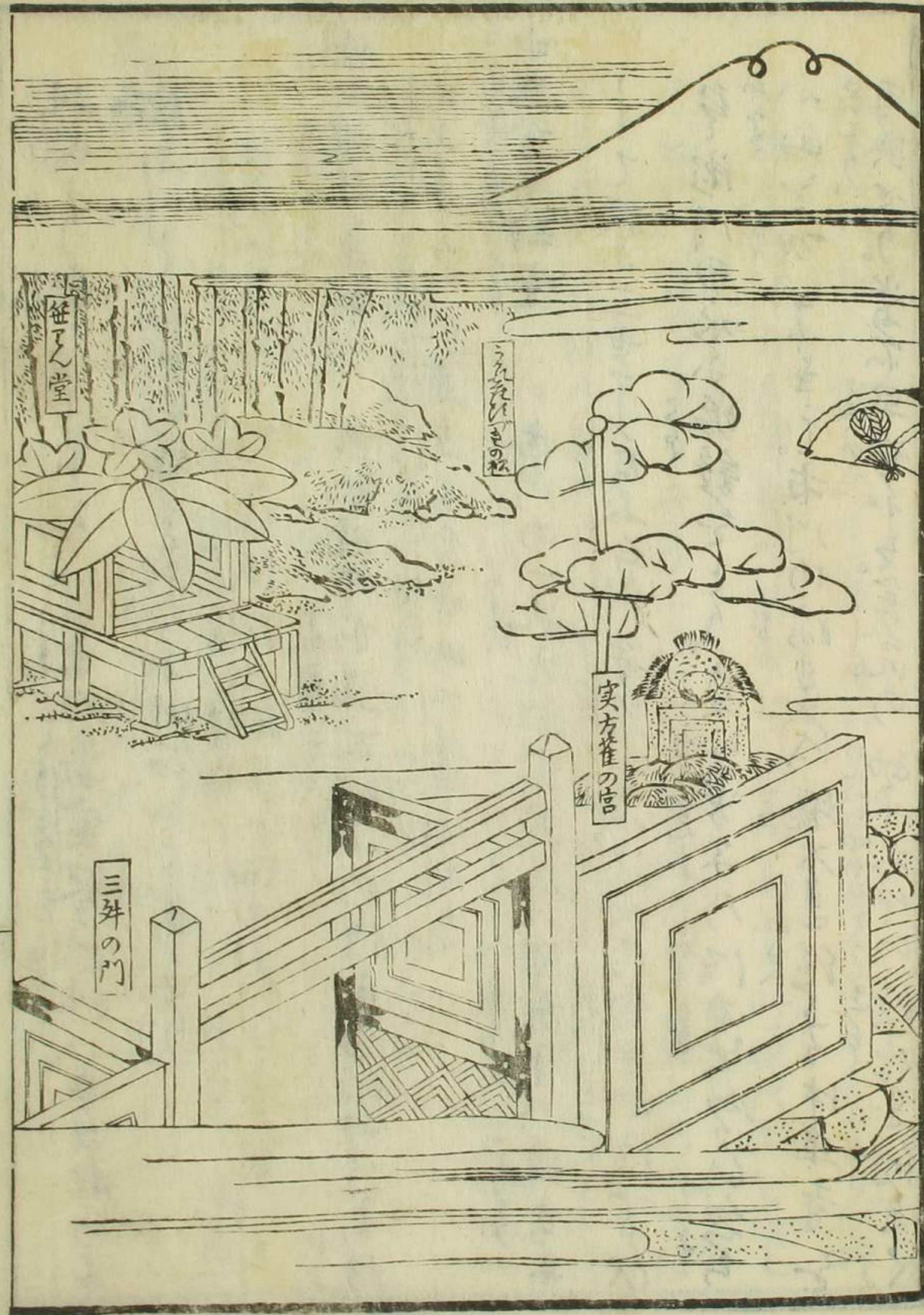
あり。此井の内は深小上。蛇といふ蛇をて所あり。いひ傳ふ

境に小身は兼細ありて。武通の棚と盛を何と。非人敵討下

坂の名叙実盛が布引は流の系。長流助輝由が黄金の太刀石見

が此八人桐火桶。その外移く。乃靈室表田ためく。開帳あり。

系流の群集押とわけら。此は。府元のお登糕といふ糕也。



此時より賣るゝと云ふ。かゝる本の表裏実今此橋ハ。吾刀赤の子
湫アリ。市川の流も今不世あめと云ふなり。

市川やきびく程に流枯の細くとあり大ききもあ

團三樓子薬師

市紅院の前立不化山の僧正乃能アリ。確

の上より此建立古今奇妙乃靈像なり。

中車寺笹輪堂

市川一流元祖定花山八百藏主乃建立也

一して既小三世了乃今此笹輪堂ハ。江村の金平小僧。了る

多。市川の永水垢跡をとり。愛生男子乃法力とあり。勿也

小山と切つときて。市川の流も此堰入道。経る中車寺を

再興せり。當宗早耶不。若流の幼平去申の鉄炮を納む。

淡る竹林ハ。評判の奇技と建つ。是より上小なり。ハ。竹

を越を。古の屋八并を流が昔をの石燈籠也。此道は光と塔し

く。助六の齧乃より安房上総のけしき成又なる築山なり。忠信

の在る少。源九并狐の祠とあり。実方塚の雀井宮小ハ。系流

乃見物也。ちりく。中車と信成成起。一び。う。れ。産院の三味山ハ。

貝。負。川。子。の。本。不。か。ら。れ。く。當。寺。女。人。の。吸。依。佛。を。り。

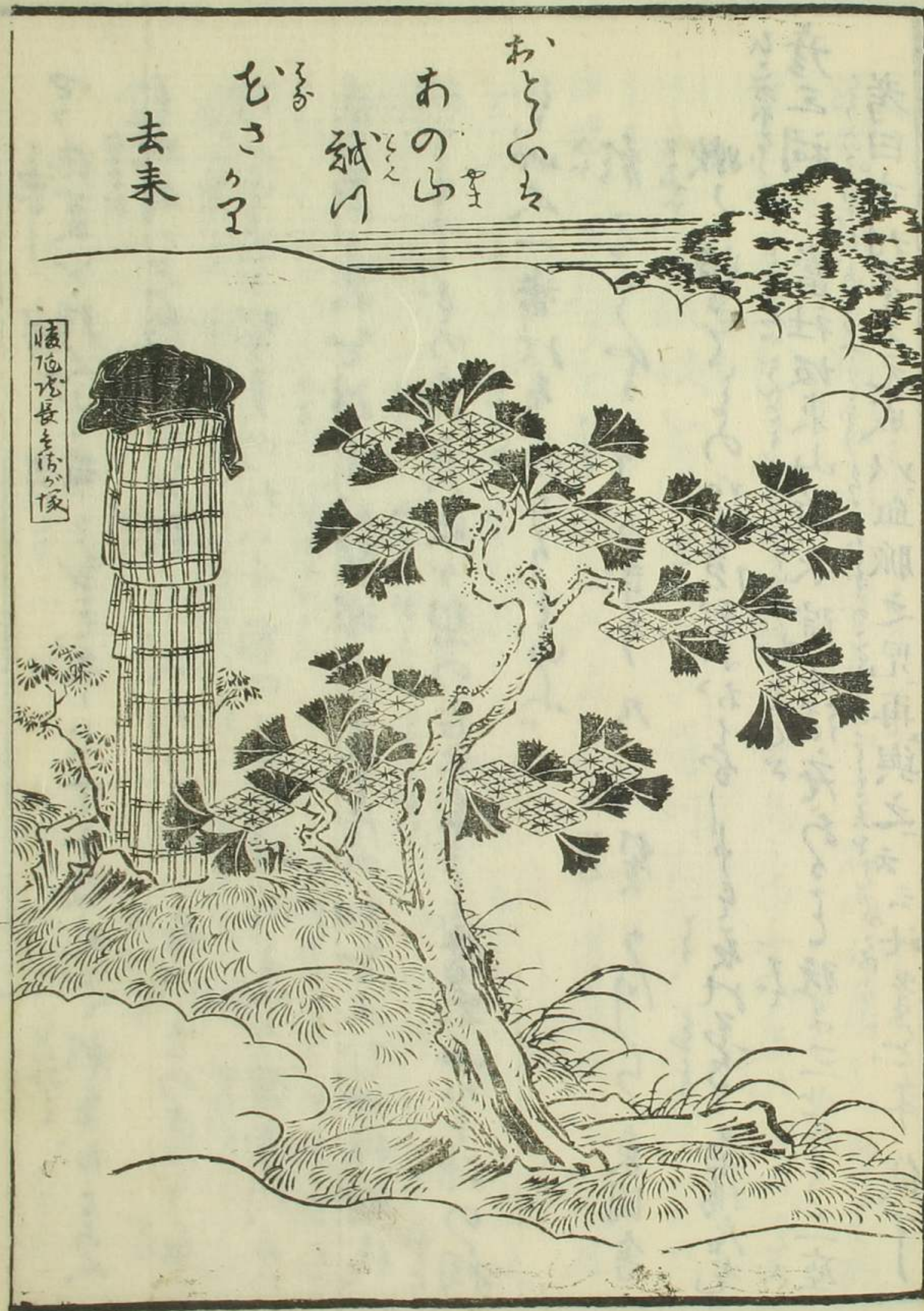
爪もまど横より。その丈入を蟹もまど似。ね。八。百。花。り。ま

冬。う。き。り。お。乃。た。も。や。や。女。物。也。其。角

高懸山錦江仙人栖

松本三岱の名山あり。山上小錦江仙人

の菴あり。坊々。芝。井。仙。は。小。三。の。銀。杏。と。守。ね。く。衣。と。し。



おとつと
あのみ
あつ
むさ
去来

懐胎長き石



花びら山

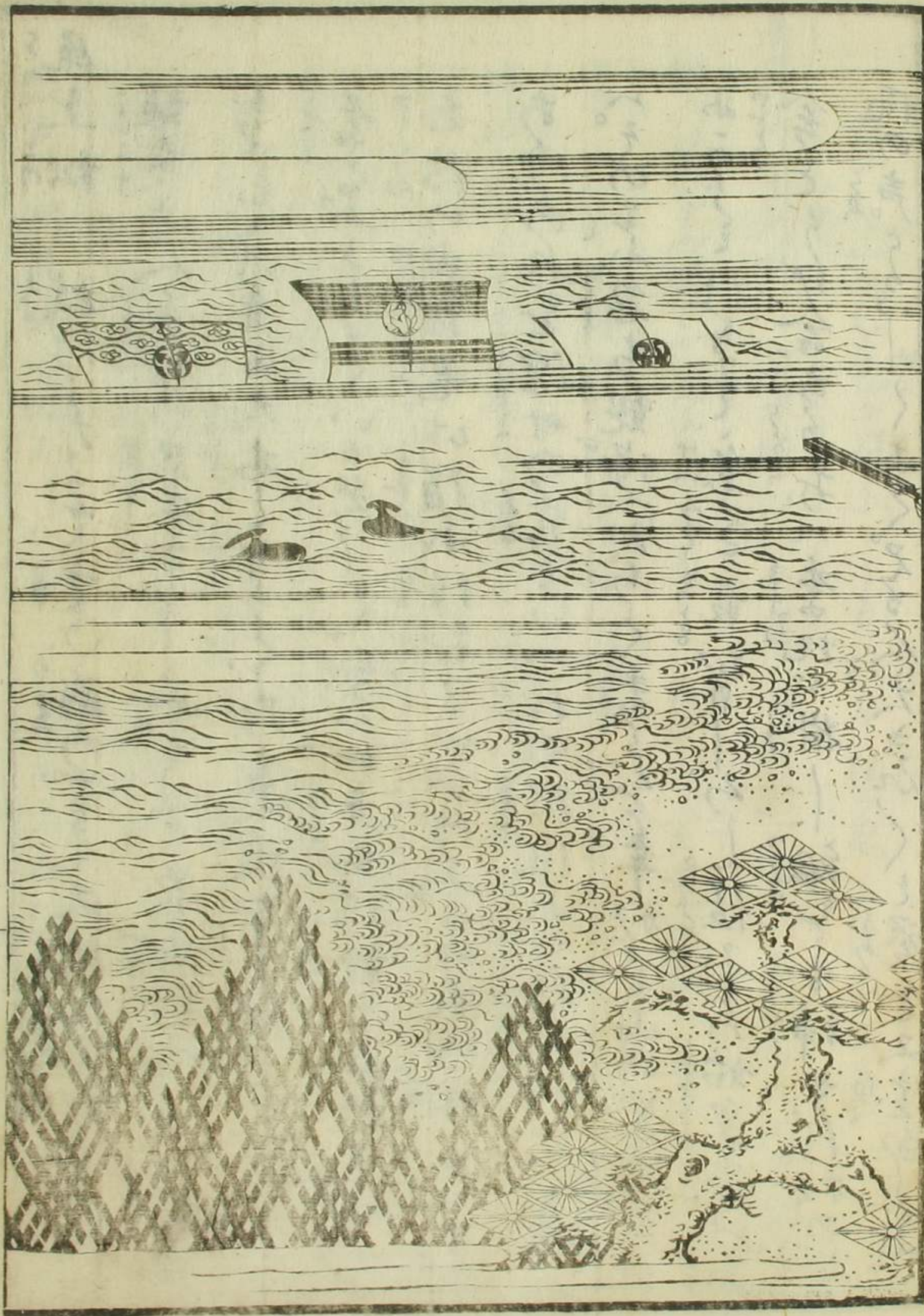
いづう山

高麗谷父子山圖

四つ花菱を結んで帯もも。年七十ふ及人ど形をおとる
む。或時ハ尺物れをを紀し。又あると此の各何ものきあう云ふ
於ふ幸患が琴奏の松八千家の茶は湯沸より。帯を川
長古忠の名を結し。比翼塚の長き帯の切を止む。世話時代
何でもやうどの表の暇が梨の古本多し。考ふやうに神の祠
後。世人一番れを居たりといふ。

彦三祠 当社坂東山新水院は法をありと形は三世なり。三座
考曰市村大夫元成以血脈之見再興之云云此堂を年俄了
流形也。諸人も教の守と崇め。石のを居たりといふ
付て。舞臺はかりしとあり。梅幸氣鳥といふ大倉け祠のつら
しめあり。敵役を任進の内小罰利生がよく又元流室乃
口伝伝はれども。聲機は乃とまぐも。小男麻のハツの内耳
とありまぐも。しりて。あうちの字が系ハ。代々唯一此
実事士といふべし。本舞臺の正面小神輿と居り時ハ
よいくといふものいれども。いつくと笑ふのあり。後馬や
樂屋の大帳ののぼりほろと坂東は名物。実ハ芝居の福
乃神あり。

形 坂東一乃 考ふやうに神の祠
後 世人一番れを居たりといふ。



彦三祠
 海邊風景圖
 簑助稻荷

夕風と

柳

浦

那

羅文

尾上松

枝ほふなりそ重の麻乃ぞとく。又抱柏如似る。梅幸上人多植の名木をそとく。そとく女松ありて優

加としら、深牙如大木とせりてなまな枝をとりてとてて

吾こぶがらとくいり終しく。今ハ加多木此松とをれを師匠

お侍の由良鬼は楯お仕むとい侍よ。この本乃松よこの穴

あり、あれを浮世の穴といふ。松の枝風ふつれく此穴を指れ

ば。その系ふ忽ち親場へおちて来る。を年かど山の名友の株

みりてとほきて、糸を最柳りらし位どら始皇帝此雨

会とらげ名ちるかハ季れが掛一細をも辞せむ。松の聲

風の声。うらうらとくきく。るる人大きくくと登る又空おとせや。

花ふいふ風を己が琴ふしと松を動かぬお代のまの

高麗寺金針水

此水錦江山の麓より流れく。末ハ市川の大洞とをれ。

睨の光もみ常ふとく世人若人乃若水と賞嘆も。前ハ鼻此峯とく

聳て。水申如敵岩あり。清濁が洞清玄が菴けりり不近。此

城流のまきと大ききとく。安石ハ実惠武道明王を安置せり。大神の

祠ハ仁木が荒おとく。いふ末ハゆやそ。此の伊久り杖突の馬柳也。

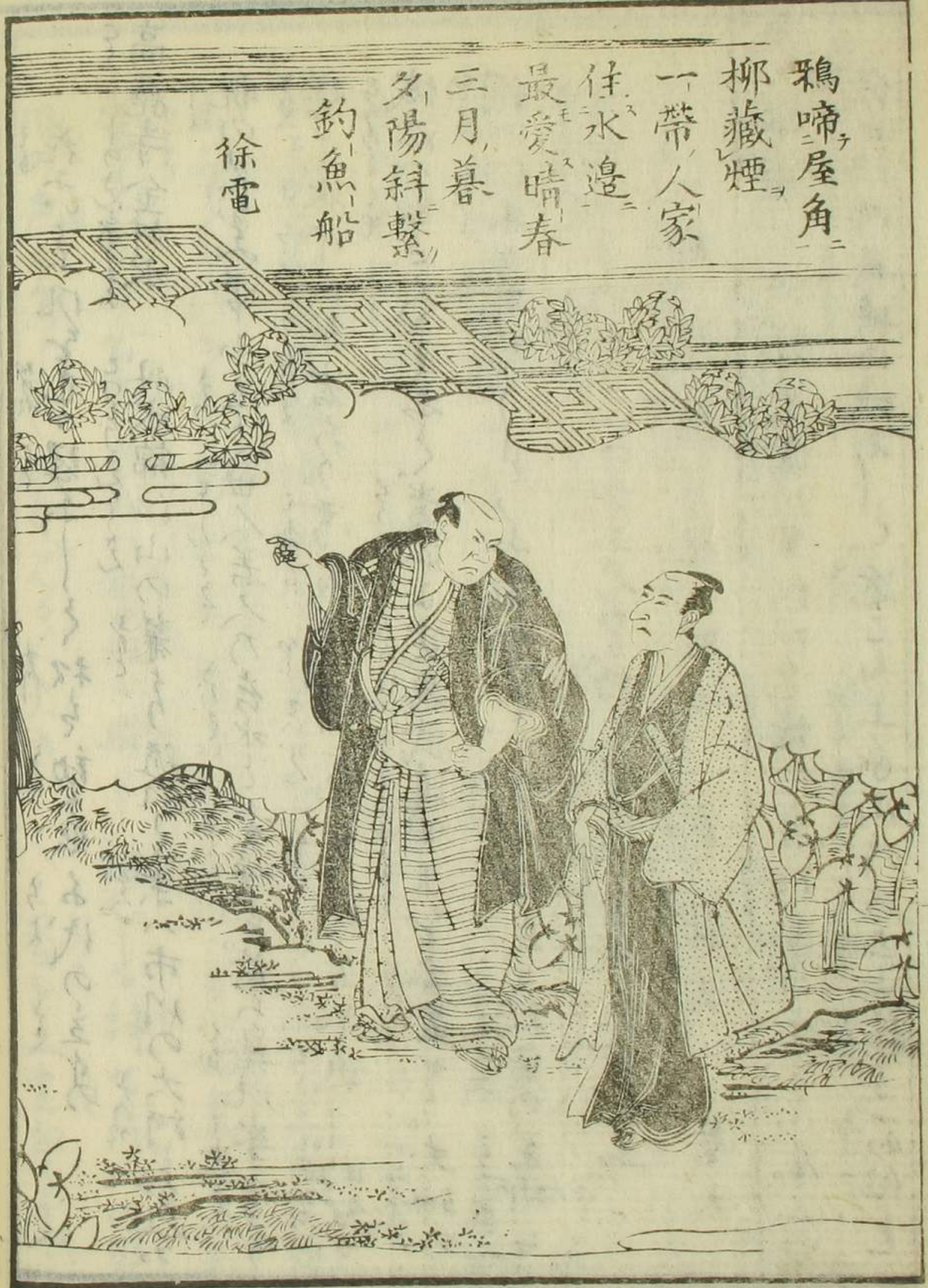
秀鶴此この落が水の方ふえり。故くけ道を益用兼田とて。

坂三津塔

此塔是業此里に河名塔の鼻柱とせり。尾上の



あじまきんまどろり
 嵐山三八堂
 まんじりのまき
 坂三津塔
 たきのやけちりりち
 龍野谷四楓



鴉啼屋角
 柳藏煙
 一帶人家
 住水邊
 最愛晴春
 三月暮
 夕陽斜繫
 釣魚船
 徐電

かろふ村よ。大カ歩のたて煙草と賣師家あり。あうち此橋下鯉
の彫物なり。世ふこれとあうちの橋鯉といふ。昔年より三役社といふの
名所乃その一つなり。三役社のいふは園十掛なり。此塔のいふは秋津の塔なり。

嵐山三八堂 上りの古跡あり。室晋弁其角が堂乃子も子ん

り。もと登たりしも此下ありともや。六角堂乃桐門ハ三五樓付
来の山門なり。神前のお物體のあり。獅子ハ場がわく。甚ど
大に。ふく井の清水は出塔を松乃古木あり。むらうと押のきく
見物のうけを居ふ。まよとを三字此額ハ文字合の昔ありともや。

徳人 や あら 芝居紙 を こりて 其角

瀧野谷四楓 此楓新車坊の庭あり。坊の構を藤あり。むらう

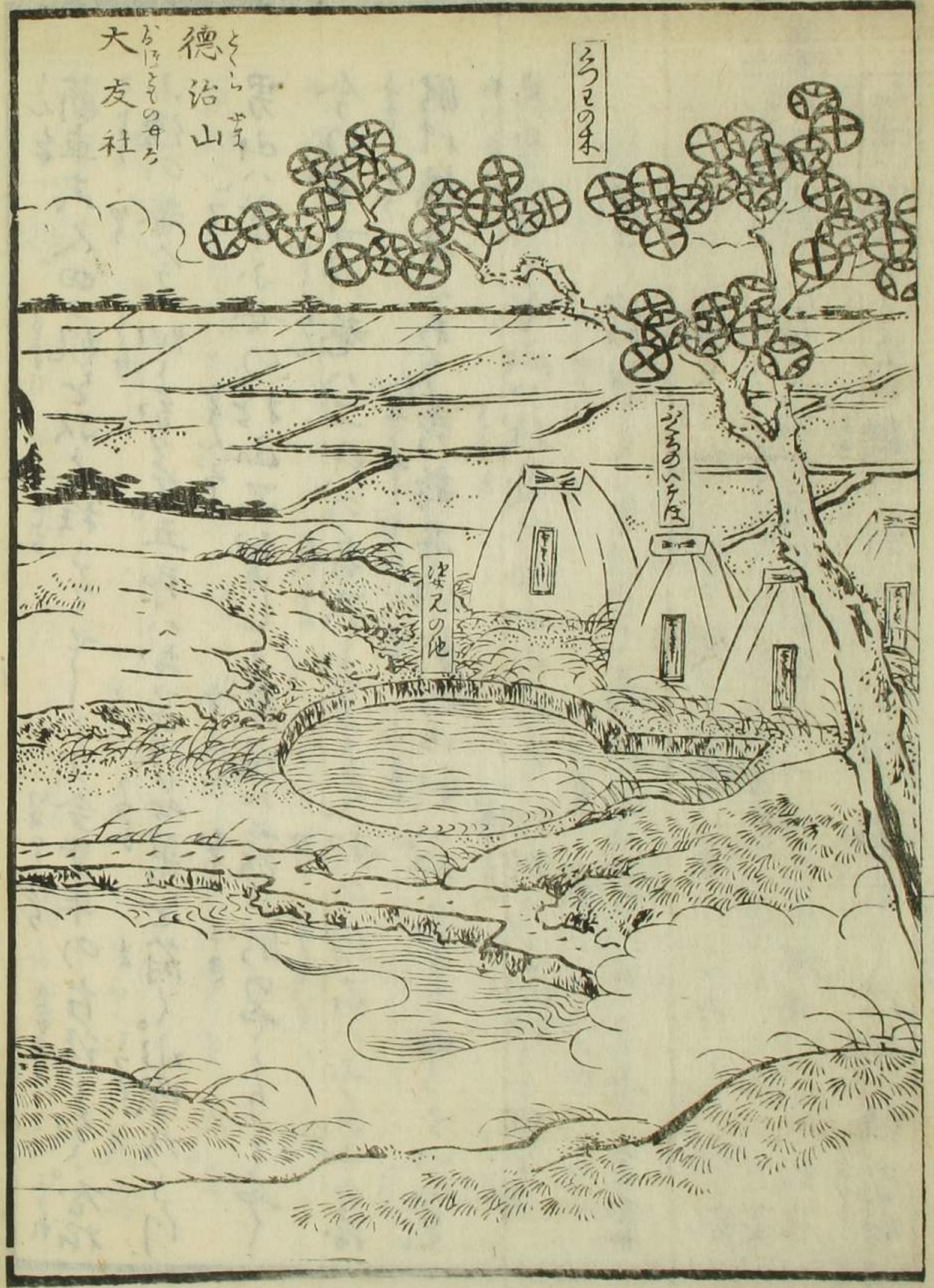
薪車夫人。四ツ楓を以て柱とせし。今業平の古伝ともや。松
小僧の菴今ハ畑ともして。五郎ハお家此女を業を荷く。水際乃り
男山ハ常小女の持山なり。しん光陰ハ庭のやうなり。今
今の男女艸菴ハ二代の名不ともや。親の侍石ハ上り。おな
流れ流しふあり。秀鶴其似影の西鏡ハ。此より世といふ。
見負のつら山ハ杖先のうふふえ。種判乃よけいなり。

わけ合の奥より色ほきて花ハ逆の雲はりとも業 とも合

ほめしむら 町中ハくや 夕ともみち 能ふか

叢助稲荷 三太大の正統是業名人 一体の大地あり。板屋

三津の三り火ハ親の親子光を坊と。出来是此正一位。お付



戲子名所圖會卷之二終

浪子の氏神あり。抑是業名人ハ明和安永天明のころ先法をこ
たれ舞臺小密或る村ハ女と化して成守乃地主神とあり。又
ある村ハ男と愛し思蠢虫長化が因果をまぬその神共妙海内
あまへり。今此筆物揃前。あまのころハいまも小宮祠と。畠田
の三田八まゝお勅禱ありしを。年俵小流以作となす。具負楯
仲野一く。小山田太舟が麦畑を圍込。法十郎が及川の並木
今ハ社殿の神本ともいふ。己未の冬再び之津五樓を建立す
親了似し人乃吟や。くはと久
ふ知作也

戲子名所圖會卷之下目錄

曲亭馬琴子編



路考臺

条三橋

野塩峠

扇蝶嶽

天王寺万菊畑

大竹屋夫

中嶋和田江

岩井山社若堂

小佐川巨撰城

中山錦車菴

松本米山

瀬川路舟岸

藤藏院半堂

山科白十廬



きりぎりす

こぼれ

秋の夜

東岡舎羅丈

桐谷鬼亭
鳥中嶋

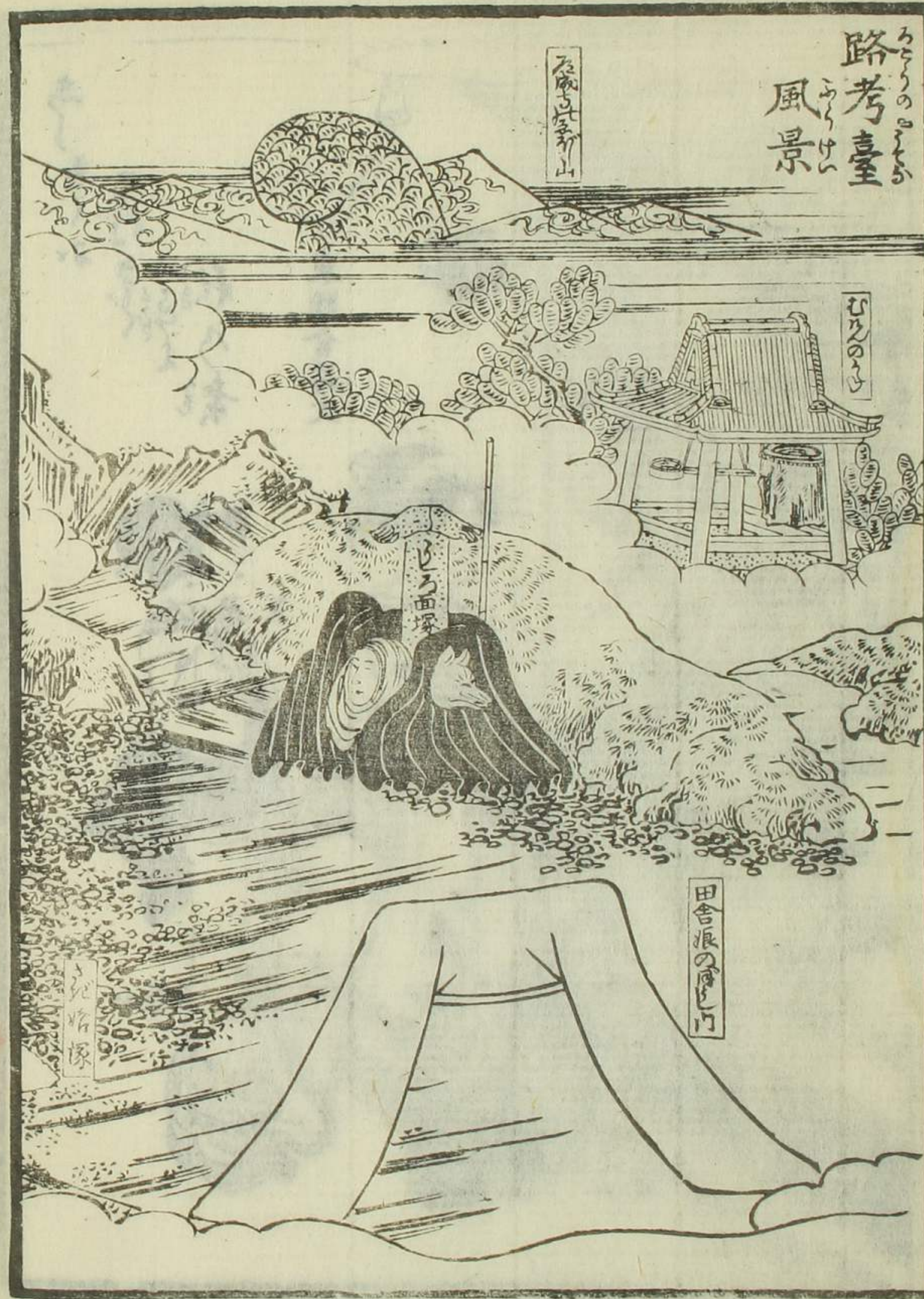
宗十樓門壽堂

熊十字街
築地善江子



花飛蝶駭不人愁
 執着相生獅子頭
 爭茂牡丹翻手扇
 千秋萬歲於今謳
 飯顆山樵夫題

匡 璽



路考臺
 風景

田舎娘の墓

路考堂

正徳年中の勸請王子は祈子古今娘の氏神なり。今
 母は三代瀬川乃水上濱村に結ばれあり。貝負ふ双の霊地。
 社殿敷了株の菊花咲ふれくおのづか城の形をなせ。是より
 世の人菊は城と呼ばせり。おのの神正徳能の字あり。踊此
 判官建立の祠なり。當社古来より石指獅子頭此神を以
 たり。此を牡丹小名なり。同下より本田道成寺の舊跡あり。是
 の鐘乃由来海内ふり響く。今も芝居の千両箱小納まり。女は神
 志菴室ハ田舎始の案内ふをたらし。雪娘の塚雪中に隠れあり。
 てうしろ面の比丘寺ハ此より小續り。お松久米の宅地女
 糸夢の宮何とせそを移のよ。後山ハお初が古々此津波に

時を時代世話五の習念の密法いちぢりして信心の法入路考
 大や支極くこと念むると又室なり。當下は名物瀬川帽
 子路考茶の深物酒こり。結帯結綿。瀬川艾の巾。りりち
 己。正面乃額ハ赤江流の終華あり。

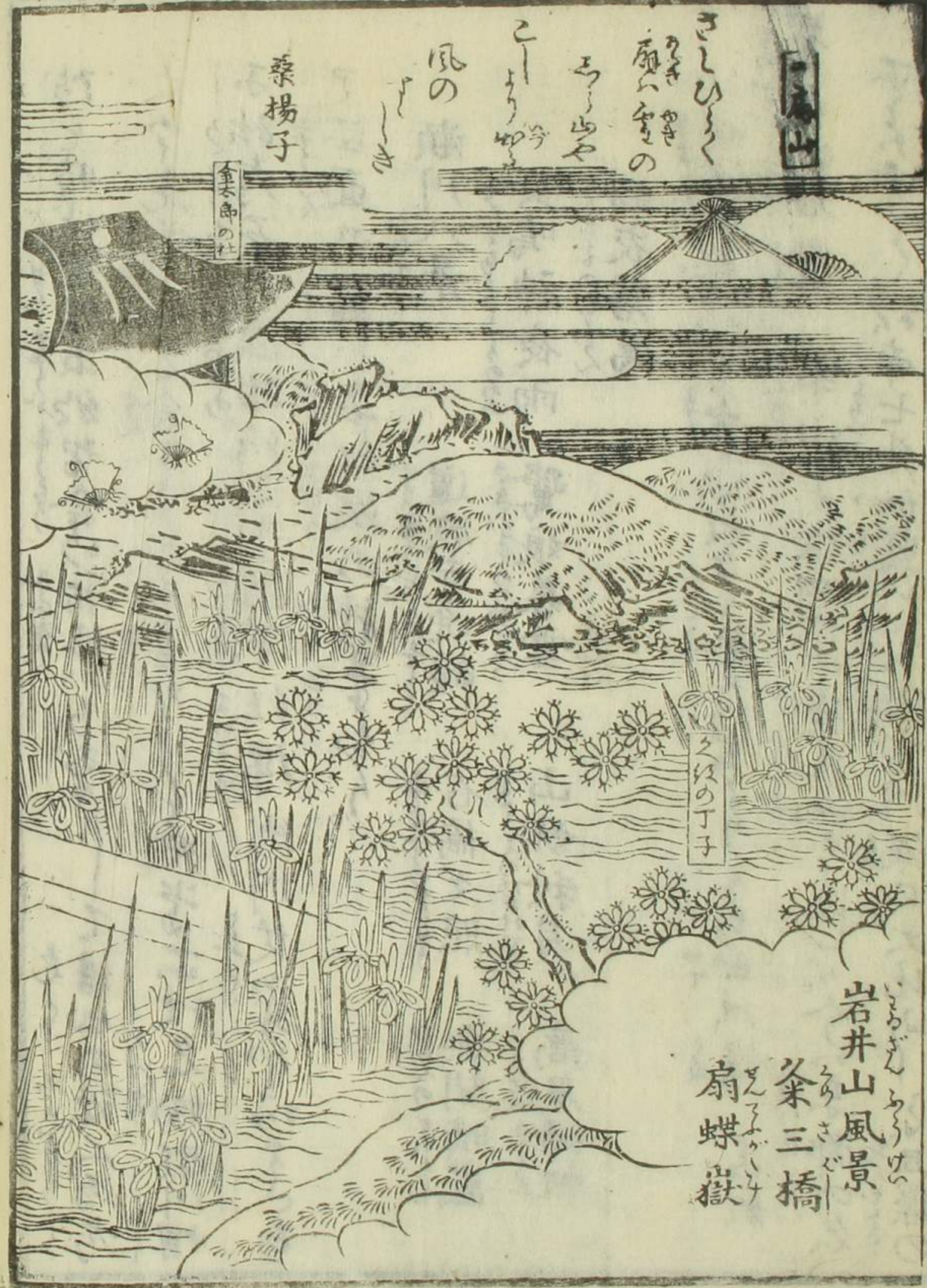
- 瀬川八景
- 道成寺晚鐘
- 石橋文照
- 無間晴嵐
- 女鳴神夜雨
- 鷺娘暮雪
- 山姥秋月
- 高尾帰帆
- 羽衣落鳳

岩井山杜若堂 本山ハ大板四代の座元流かりしが。今も京都の名
 所となり。松本七翁伽藍其宝飾。市川流の大地あり。且孫の



下四

下四



岩井山風景
茶三橋
扇蝶嶽

夕紅の丁子

金太郎の社

桑揚子

風の
こころ
まよや
願の
きしひ

下三

惣本昔市川山の後見を兼帯せり。寺内小三ッ扇の芝のり。此道と
 扇町とふ。よく口伝の融大長は細ハ小山の元取名神と崇めしむ。
 七変化の小町塚馬貝乃禿堂也。こふ。夢子院此傳をうりしと。
 第六丸下山乃古海きの井が子列此は渡稻性童丸カ石号。
 諸人とも身なる絶系あり。阿仙々三日月山の碑ハ今此道乃よ
 かと神をとの外き亦乃奇陽靈室と枚舉るも小違ありは作
 當亦ハ不依天皇乃勅所折り。地蔵殿亦吾經石の再興之和矣。更
 これを執る由舊記ぬえ。うり実不可思儀の靈場なる。耶。法行
 臺常の慈嘆少。実相多漏の一幕をり。是生滅法は大入。ハ
 危生観念乃見物を川く唯此山あり。け妙なり。世妙をて

此山繁昌也。凡夫觸穢の癡眼を以て。何と此妙乃是非依編
 せん。

ふところろ了 留 彼 紗 阿 杜 若 柳 居

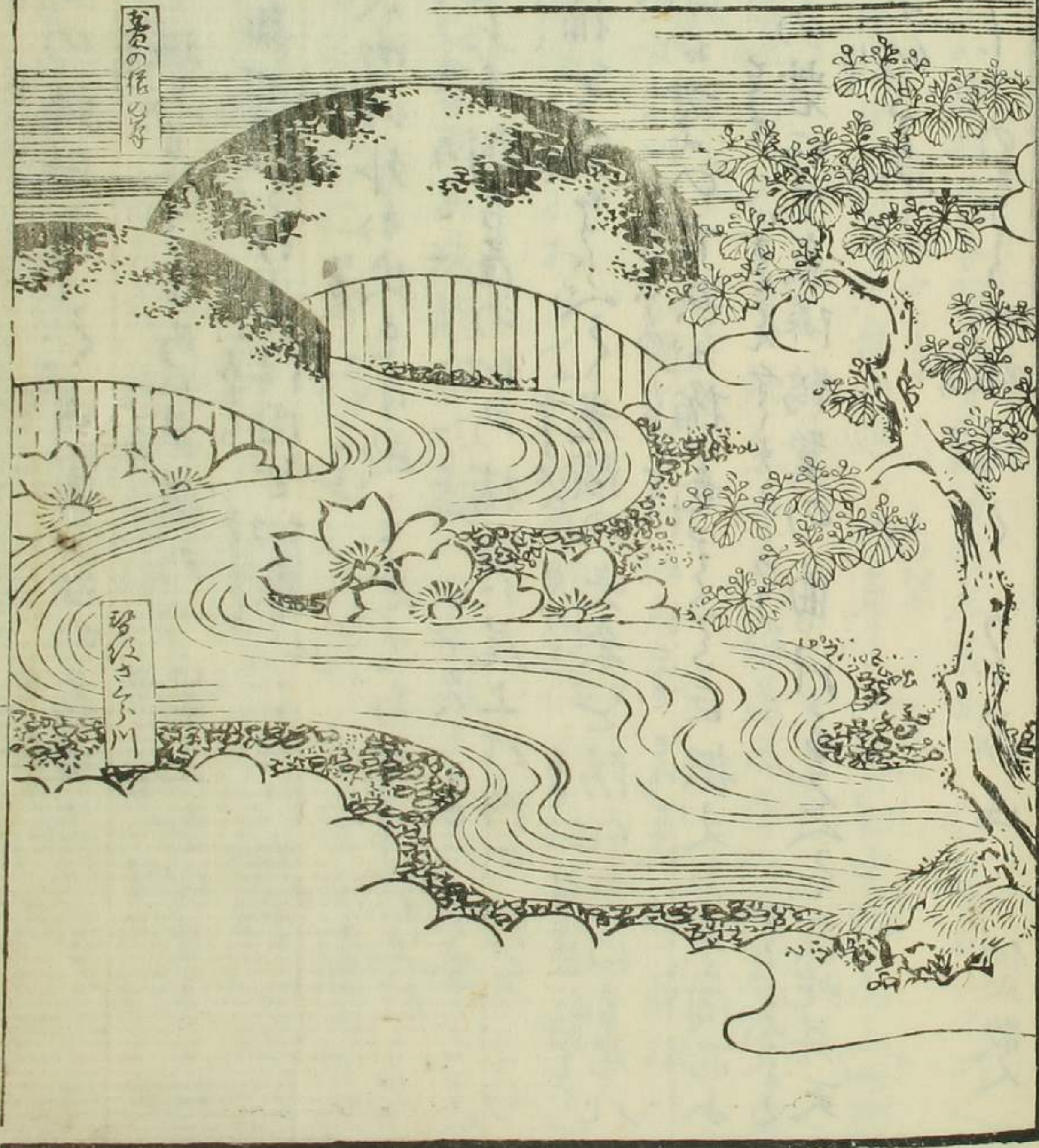
久米三橋 杜若寺の内みり。楷乃形振袖了。似くこふ。

藤なり。此道を袖分川。水正ハ岩井山。此流
 せしをゆく見物。落る早瀬あり。親不正田の林中。生
 各天の洞あり。社内小総角大河。うり此教矣。を習る。的
 場あり。

梅 女 柳 ころ 麻 くれ

小佐川巨撰城 當城ハ前の小佐川也。支常世此後亂地蔵云の冠者

中山 ちゅうざん
 錦車菴 きんぐるまのやま
 たづ たづ
 乃 の
 梅柳 うめりゅう
 風羅老人 ふうらろうじん



小枕川 こまくらがわ
 巨撰城 きょせんじょう
 二の松 ふたりのまつ
 三の松 さんのまつ



三萬九千支の縄張り。古今ふ奴の名塚あり。妙音
 の立田川を堰入も。ろへ武道乃一筋乃を。教
 万路乃を物と引く。仕内を切幕のうらに。事
 事を八百八町の外。小敵と見て。大役と
 く。文小忍れ。阿古屋の松乃。尾上比。槽
 槽三枚の桶を突。光陰の矢米を防。敵
 とり。疎小おやまの古兵。桶蓋。巨撰文。同
 七菰が出丸の若。魚隣鶴翼の曲。長蛇昇天
 成隊の陣。似。り。の。ハ。梅。咲。く。？。み。山。 仙水散人

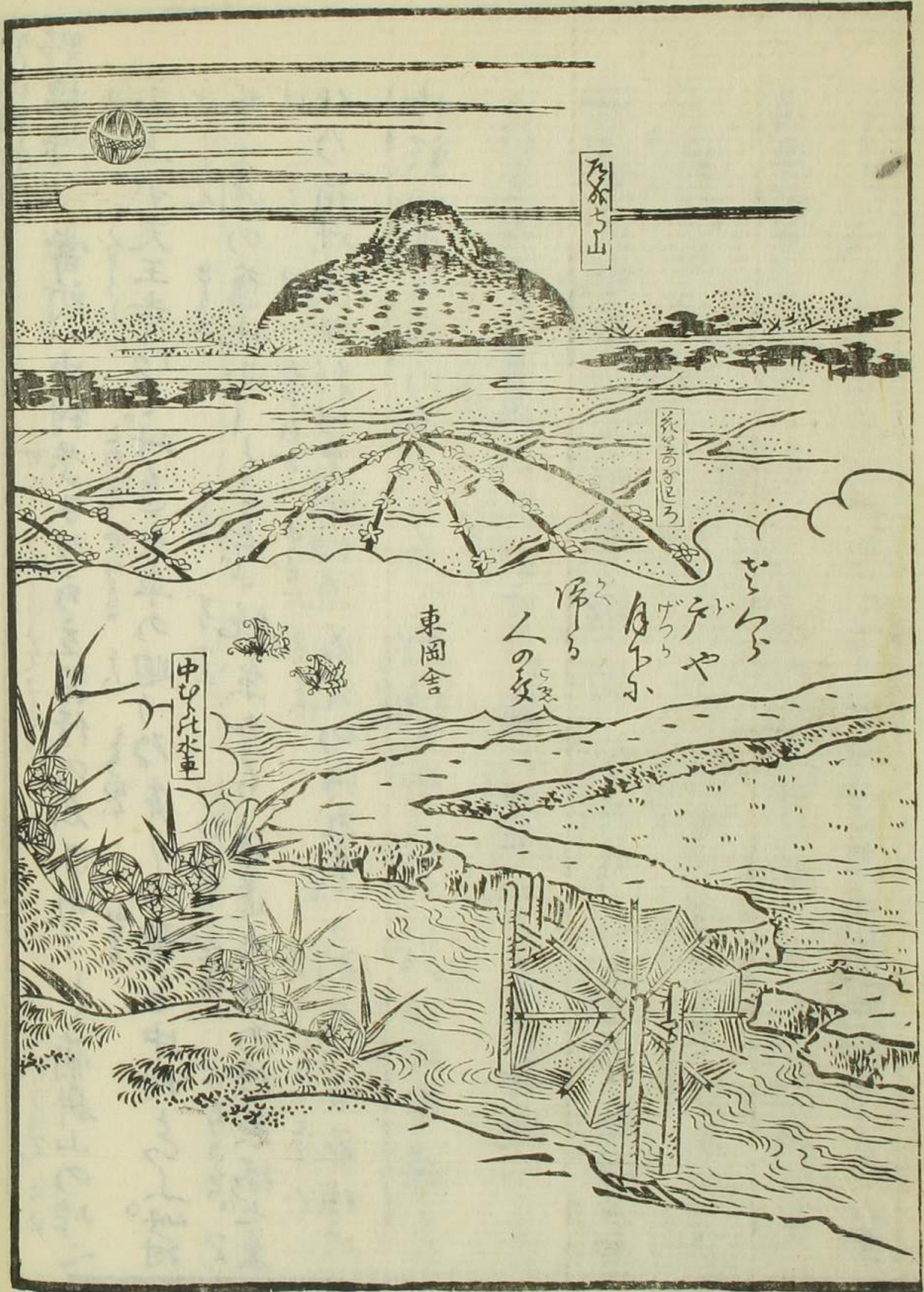
野塩峠

當所ハ中村榮子院。お傍の名。蘭耕山の峠。山
 上ハ天王寺。此を夫車の廻り。麓を中村。村
 榮子院の舊地。純系なり。娘道成寺の。菅
 化乃。箱池。女。切通。若元。の。菅。相。此
 少。山。あり。竹。五郎の社。ハ。拍。像。を
 書。字。額。ハ。紙。これ。と。云。く。こ。世。乃。古。此。の。峠。峠。榮。子。一。保。の。古。師。と。掌。に。入。る。眺。望。の。台。山。信。田。此。葛。の。雪。乃。橋。名。本。あ。り。茂。り。合。く。乃。成。寺。接。穂。の。橋。ハ。昔。本。風。流。と。云。り。て。妙。なり。當。所。ハ。金。菰。寺。の。杜。也。い。ま。若。木。と。云。ふ。



野塩峠
松本米山
山下万菊畑

松本米山の塩



なみち山

なみち山

東岡舎

中ひれ本車

さくら
や
あ
の
女

中ちかき。後少一本きひの太本とるべし。

中村の二五府ぶぐり出来乃よ天玉ちや八分厚なる言此 傀偶子

中山錦車庵 大見山ぶふやく此扉より。店の構あはしく。

床にかけたる敷物。今を日の出乃立物なり。月り此を爲

可巻ししく。水際の一ほぐくや小挿入ま扱よ一挺の石作屋を

まぐけり。庭ハこせつらどしておまんのお山をえを沈みハ改

のをく川と堰入ま。定級の相戸乃傍お。老致のこばま在

嘆ふれ。田のままつを真ぶくくえへく。人ぬれもる風景なり

老致と上り紙ひら道なり。館上屋なる小夜の中山 傀偶子

扇蝶嶽 岩井山のまより出く山の勢もく言く。吾藤あり

又とらりのあるまきをり。世山とドめハ新藤味といり。今倍

あつふ高代を山まを。此色の人の通町のま夫山とも呼做

せり。師匠の落及小よは役のほり坂を登ま。又おの声成掛

梅りりく旅やわり。

松本米山 此山小次の松鶴山よりこれく。今一名を流野山と

号を。びり子役乃親方堂なり。時。序り。雪の禿松より

け山は身よ冬くくちなり。今ハ松本の文車寺を建立せり。

雷の谷より。小く此清水を流れり。てて。老致を杖の立

本多

寺一山のところ
 山科白十廬
 中島和田江
 桐谷鬼亭
 熊十字街
 烏中島
 築地善江寺

この人扱

船形まこも

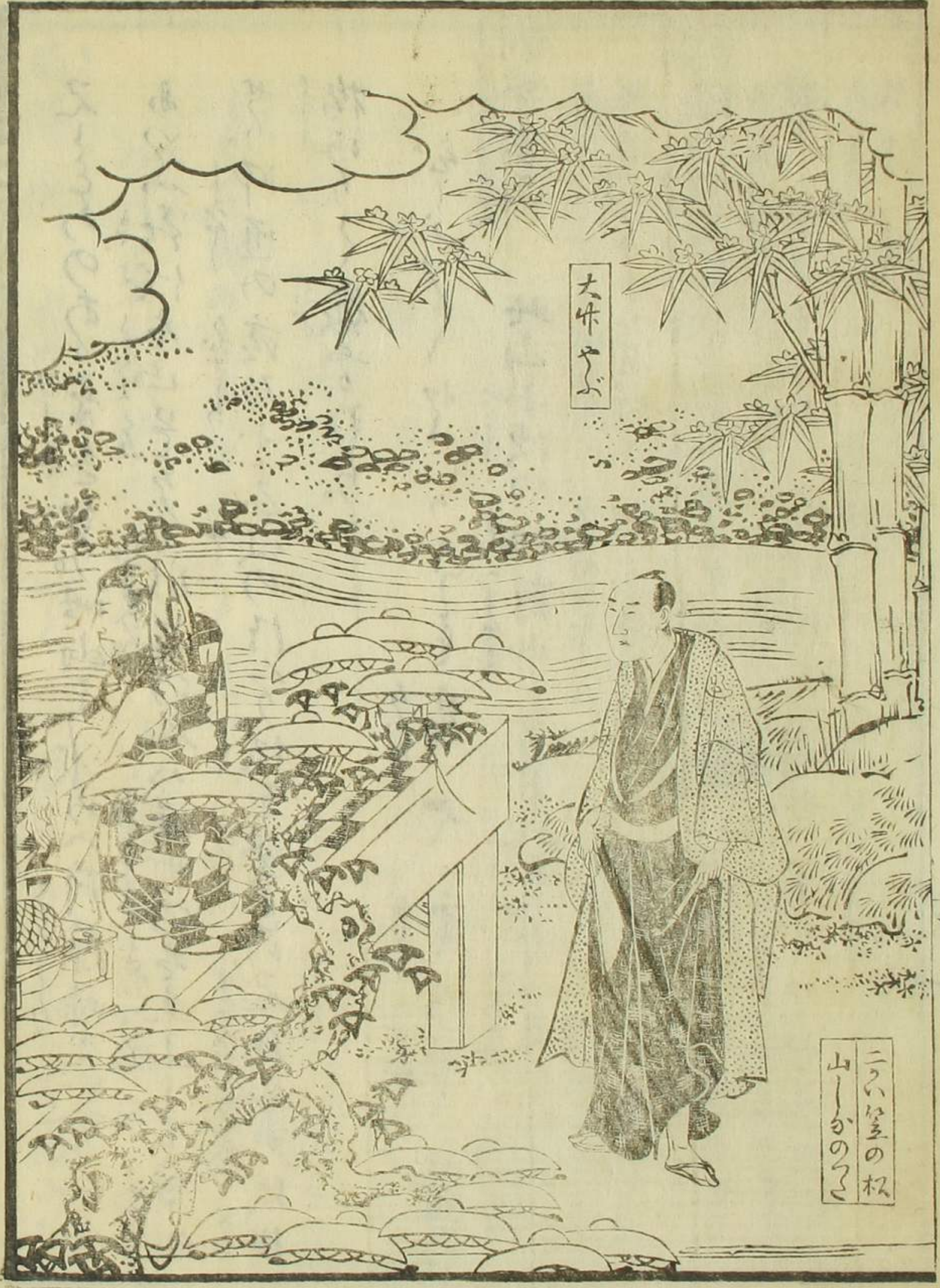
こまぶき

晋子



大竹やぶ

二つは五の松
山一かのこ



つぐむ色く小川と文車へ回し合せのよき手本なり

天王寺万菊畑 山下金化堂根分此畑大輪ありてふかき

かしく天王寺の株をうしかりしを。此牙小ねをのち入あぶ

忽ち江戸の土よあわく。芳き名を揚へこと。又東の村と治り

菊ありく芽を芽わくこと。嵐亭

瀬川露丹岸 當下ハ瀬川兼水の流ありて此岸ハ雄次

が露の揚り場あり。振袖乃帆掛紙向ふあそくおし

のふ風系をを。

きくふよく似るむあり 是乃子

大竹屋主 此敷江村音江より出る竹のふたりしぐたす小

藝の実が入く。實悪班の大竹とたなり。此の口松小一節あり

と。古人の不謂野主めと切乃者き是るべし

藤藏院半堂 若花院へしめ萩野子あり。今ハ宗を

久く江村小移る半堂の池は江川を蛙多く住て。當

世小棟の丈木あり。

中嶋和田江 當下ハ中嶋三浦此松予より出く。公家悪皇

子松楓乃地あり。江戸生也の名木天幸寺二階堂の松今

ハこれ声太平樂を奏するふ似り。

山科白十廬 切者上人閑居の菴あり。極志つゝか風

系あり。夢不終く。仕られ大むしとつふ名案を思



楸樹馨香倚釣磯
 斬新芭蕉未應飛
 不知醉裏風吹盡
 可忍醒時雨打稀

杜少陵

柳の由を
 古の
 ありやの
 けり

石中



舟の望み柳

八の字の橋

五人桐

希く安んずるをすくむるこころなり。

桐谷鬼亭

此亭を比門を以て建てるを以て桐谷中村の中通

小わりしが今も独立乃て放れ門となる。元浦の物語を常用す

て年々一版づつ上りのるる三階造りなり。

熊十字街

杖曉坂の古跡を以て築かすは不けん。當不正月山よる石の

礎と止る。頃あるよる男婦を以てこゝに若れ休を後せり。

鳥中寫

此處に池のあり。鳥羽の築かする名不たりしが今

ハ終小名を以て跡もさる。天明の比を以て市川の流れを以て

小三山といふ山の仲色。今此流は流とを以て名に於て別れあり

築地善江子

坂東三十三所のせられてふと。名を以てする舊

跡を以て以て笑む。むやみやん遍の念仏堂なり。戒壇小一

の石を建て則六字を彫りて書して曰許群集入技敷

宗十樓壽臺

紀伊國山沢村の内ふり。とどめ助高藪高助屋鋪

乃古伝あり。今も至て四代古今奇思儀の跡を以て

上は訥子大鳥名神の祠なり。非体々當時大立物武道浪子命小

いとく外ふ仕人の内陣ハ足利親兼此再興清盛入道の像を安

置也。社政小梅所与西条の院中石なり。世に宗十樓の頭巾石と

いふは是なり。傍小修久宮初乃黒髪之柳なり。坊八の文字塚

此所の名所なり。後世伊久馬氏の柳を植ふとの。このまを

接本なりといふ大早由良乃湊盜賊石川此流ハ當時ふ双は

古蹟と云ふ。忠信が鞍の尻。知盛は落刀岩。いふか橋の並木。小
 名さく。秋で幕を桐の澤。さへ。ま似人乃内侍の舊地なり。妹
 脊山より大判治を見おろし。菴屋の里了。保菜畑をてん
 いせり。文の秋の夕方。小友作の浦に眺せし。風流才一の言興
 多し。ゆせと當不此。名物。後摩國府了。五人切り。した
 てた。いご。ハ古今未多。其の評判。いよく。千両箱。折治。乃。本。店。
 極上。と。名。の。名。葉。と。い。う。だ。し。

後摩國府たてとよし。い。人。切り。さ。り。治。了。一。沃。村。の。名。と。 傀。偶。子

戲子名所圖會卷之下 大尾

馬琴老人性耽著作。雪案營窗吮筆
 不輟。近日觀新編冊子。竊偷。蕢先
 生と術。釀。研底。牙一。毒。我。揚。一。種。
 天地忽然。招。出。山川之脚。色。草。木。と
 部。目。無。嬰。造。化。之。機。奇。新。可。驩。
 工。描。作。圖。添。獲。清。景。貴。介。公。子。美。
 映。換。梨。園。之。遊。至。翁。因。果。如。何。

湖上再來之笠翁子
省已未霜月朔暮年洛橋之南
垂柳 溪叟 山東子之茅

江戸 京山載



足

武江

曲亭 瀧馬 琴撰



一陽齋 歌豊 國畫



戲子名所圖會拾遺 嗣刻 剗刷氏 權八



書肆

大阪府平民
華本安治郎
月府下三休橋北久賢寺町
相原政治郎
月府下東區本甲四丁目



八五八

